令和４年度石見養護学校グランドデザイン評価指標　～年度末評価～

＜令和４年度重点目標にかかる学校評価指標について＞

石見養護学校　学校運営方針「みちしるべ」より　令和４年度重点目標

①コミュニケーション力　○めざす学校の姿　「保護者・地域と連携・協力して、教育効果を高め合う学校」
○めざす児童生徒の姿「思考し、他者に伝え、共に学び合おうとする児童生徒」
○めざす教職員の姿　「組織の一員として共に考え、よりよくしようと行動する教師」

＊自立活動を中心に全教育活動、日々の学習の中で、伝えたい思いを育て伝える手段を豊かにする。
＊人権意識を高め、寛容な心で多様な意見を受け止め、ともに考え伝え合い行動する教職員集団をめざす。

年度末アンケート
1：よくできている　3：やや 不十分
2：できている　4：不十分
5：わからない

年度末自己評価
A：よくできている（肯定的評価90%以上）　C：やや 不十分（BとDの間）
B：できている（80%程度）　D：不十分（50%未満）

年度末自己評価　2023年1月

		担当	重点目標	具体的方策（手立て）	評価方法・指標（規準）	評価者	中間自己評価	年度末評価アンケートより(%) 1	2	3	4	5	年度末自己評価	年度末評価 ・評価方法等の結果　意見：○良い点　◆改善点・改善策
①コミュニケーション力	めざす学校の姿	総務部	○邑南町（地域）の人的・物的資源について校内に発信する。	・校内のニーズを知るためにアンケートを取る。 ・教職員対象に邑南町講座（コーディネーターを講師に迎えて研修・体験等）を実施する。 ・ニーズに合わせて校内へ情報発信を行う。	・研修や体験の実施：年1回 ・情報発信：学期に1回	総務部員	B	14	86	0	0	0	A	・研修や体験の実施：年1回　◎（研修1回、体験2回） ・情報発信：学期に1回　○ ○地域連携CDと連携し必要な情報を授業担当者へ発信することができた。 ◆更に教育活動が充実できるように支援していく。
	めざす児童生徒の姿	小中学部	○共に学ぶ仲間を意識しながら、自分の思いを相手に伝えられる力を養う。	・児童・生徒が自分の思いを伝えられるように、実態に応じた伝え方を考えたり、支援したりする。 ・自分の思いを、聞いてもらえたと感じるられる場を、意図的に設定していく。	・学部内で統一した視点等による児童生徒の具体的な姿の記録 ・年度当初の姿と選定した取組後の姿、年度終わりの姿の変容	小中学部教職員	B	20	70	0	0	10	A	・学部内で統一した視点等による記録はできなかった。 ・児童生徒の変容をとらえることはできた。 ○思いを伝えられる場の設定が、各学級や合同学習・学部集会でできた。 ○各学級で、児童生徒の実態にあった教師の関わり方を整理したり、ツールの準備をしたりしたことで気持ちを伝えられることができた。
		高等部	○自分の考えや思いを文字や言葉等にかえて相手に伝えていく力をつける。	・各教科等や自立活動の時間を通して自分の気持ちを伝える場面を設定する。また、よりよい伝え方について指導していく。 ・伝えられない思いを教師が代弁したり、選択肢を示したりする。	・学級経営案等にて学級としてまたそれを基に学部全体で振り返る。 ・各学期の振り返りの中で、生徒の自分の気持ちを伝える力の高まりが見られたかを評価する。	高等部教職員	B	9	91	0	0	0	A	・学級経営案での反省を一覧にして、学部全体で振り返りを行った。 ・各学期ごとに振り返りを行った。いろいろな学習場面でそれぞれの生徒に合った支援をすることで、自分の思いを伝える姿が増えてきた。また、言葉で伝えることが難しい生徒はICT機器を使ったり、文字で伝えることで気持ちを伝えることができるようになった。よって、生徒一人一人の「伝えていく力」が高まったと評価した。また、以下の良い点、改善点が挙げられた。 ○相手に伝えていく力をつけるために、教職員全体で協力して取り組みいろいろな場面で「相手」「伝える」を意識した活動ができた。 ○生徒の実態に合わせて、思いを伝える場面、表出の方法を探りながら実践し、生徒の思いを引き出すことができていた。担任や学年部、学部で粘り強く生徒に向き合っている。 ○各クラスで自立活動などを活用して、生徒たち一人一人の気持ちを確認したり、話をしたりする時間を確保していた。 ○授業や行事の振り返りの場面等を通して、自分の気持ちを伝える場面を設定できた。 ○必要に応じてケース会を開き情報共有をすることができた ●活動をする中で先回りの支援も見受けるので生徒の考える時間も大切にした指導が必要だと思う。また、活動において教員の数もその都度検討が必要である。 ●伝える力を高める工夫やアイディア等を、学部全体で共有する機会があると全体でスキルアップできたかもしれない。 ◆現在は関係のある教員が主であるが、将来につながるように早めに支援機関とのつながっていく必要がある。
		寄宿舎	○素直に正直に自分の気持ちを伝え、表現する力を高めていく。	・「舎生会」や「お話週間」「終礼」などの話し合いの場や表現する場面を設定する。 ・舎生が選択したり決定したりできる環境を設定する。 ・舎生の意見を積極的に求め、その意見を尊重し認めることを心がけて接する。	・生徒向けアンケートによる評価 ・指導員で統一した視点等による生徒の変容の記録	寄宿舎生徒 寄宿舎指導員	C	0	100	0	0	0	A	・生徒向けアンケートの結果 ○ 　すべての生徒が自分の気持ちを誰かに話すことができたという評価だった。また、「舎生会」「お話週間」「終礼」以外の場面でも自分の気持ちを伝えることができたという生徒が多かった。 ・指導員の記録より、以下の良い点が挙げられた。 ○それぞれの舎生に応じたやり方で自分の気持ちを伝えたり、表現したりすることができた。 ○舎生の意見を積極的に取り入れる場面が多くあり、少人数ならではの良さを生かした取り組みだった。 ◆舎生会や棟会で話し合う場面設定が少なかったので増やしていくとよい。
	めざす教師の姿	人権教育	○他者の考えや思いを受け止め、互いに尊重し合う雰囲気を高めていく。	・各学部の実態に応じて人とのかかわりについての情報提供を教職員向けに行う。 ・全校活動において、人間関係づくりや雰囲気づくりをよくするための提案を推進委員を中心に教職員向けに行う。	・通信での情報提供：学期に1回程度 ・行事等の振り返りから、教職員に意識の向上が見られたか、推進委員会で評価。 ・「人とのかかわりアンケート」での生徒による評価：学期に1回	推進委員 全教職員	C	8	84	2	0	6	B	・通信での情報提供：学期に1回程度　○ ・推進委員会での評価　○ 　行事等の振り返りから、児童生徒のよかったところについても、推進委員会で情報共有を行った（全校特活のアンケート等を基に）。 ・「人とのかかわりアンケート」による評価　○ 　結果を子ども支援部と共有し、情報交換をしながら取り組んだ。 ○学校の課題に沿った研修や、様々な人権課題についての情報発信し、教職員の意識を高めた。 ◆児童生徒が人権課題を意識できるような動機付けを図り、推進していく。（各学部や全校活動の取組等） ◆教員間で、何気ない言動を振り返り、お互いを尊重し合うような取り組みを継続的に行う。
		子ども支援部	○自他を認め、共に活動に取り組もうとする児童生徒を育成する。	・学校生活全般（学習、全校特活、児童生徒会活動等）で「キラリいわみ（仮）」の取組を実施する。	・児童生徒向けのアンケートにより評価。（回答が難しい児童生徒は、担任が活動の様子から回答。） ・年度初めの評価＜年度末評価	児童生徒(担任)	C	29	71	0	0	0	A	・児童生徒向け「人とのかかわりアンケート」結果（学期末）　○ 　1学期：同級生、上級生から嫌な言葉　1名　＜　2学期：なし ＜キラリいわみの取組の実施＞ ・お互いの良い所に目を向ける機会となった（全校活動や学級活動で）。 ・行事や全校特活とからめて取り組み、振り返りの場面で活用されている。 ・児童生徒の良い姿を見つけられている。 ・生徒達だけでなく、教職員にも取り組みの輪を広げることができた。 ◆文字での理解が難しい児童生徒への「キラリ」は、実態に応じて顔写真を貼ったり、花丸マークで表したりする等、実態に合わせたメッセージの工夫を働きかける。
		舎務部（子ども支援）	○一人一人のやりたいことを行事や余暇活動の中に取り入れて実現する取組を行うことで、主体的にかかわる生徒を育てる。	・定期的に舎生のやりたいことの希望を取る。 ・会話の中からやりたいこと等がでてきたら記録しておき、舎生会等で取り上げる。	・生徒向けアンケートにより評価：やりたいことが実現できた達成感 ・指導員で統一した視点等による生徒の変容の記録	寄宿舎生徒 寄宿舎指導員	B	31	69	0	0	0	A	・生徒向けアンケートにより評価：達成感　○ ・指導員で統一した視点等による生徒の変容の記録　○ 　前期より、主体的に行事に参加したり、意欲的な言動がみられる舎生がでてきた。 ○主体的に活動ができるように、棟長会、終礼、舎生会などでやりたいことや、生活についての改善点などを発表する場を設けた。 ○舎生のやりたいことを実施するため、要望箱を設置したり、行事の中でやりたいことを取り入れた。 ◆舎生が主体的にやりたいことができるような体制を整えていきたい。
		舎務部（総務）	○避難訓練を通して、生徒の防災意識を高める。	・生徒が自分で考えて判断する場面を取り入れ、主体的に参加できる避難訓練を計画し実施する。	・生徒向けアンケートや指導員による実施後の振り返りによる評価：生徒の主体的な参加	寄宿舎生徒 寄宿舎指導員	B	31	69	0	0	0	A	・生徒向けアンケートや指導員による実施後の振り返りによる評価：生徒の主体的な参加　○ ○事前の勉強会では避難について生徒が自分たちで考えながら学ぶことができた。 ○アンケートから、生徒は避難するときの約束ごとを理解し、状況に応じて適確な避難をすることが確認できた。 ○訓練を通して生徒が一人一人適確な避難ができていた。 ◆実施後の指導員の振り返りでは、非常ベルが苦手な生徒の対応に苦慮する声が聞かれた。
		教務部	○校務支援システム等の円滑な移行を促進する。	・分かりやすい書き方研修会を実施する。 ・相談しやすい体制を整える。	・校務支援システム活用アンケートの実施：８０%以上理解	システムを利用する教職員	A	40	60	0	0	0	A	・アンケートによる教員理解度96% 　分かりやすい研修会を実施できた。教職員の負担軽減を考慮し、3学期は紙媒体で配布する等、工夫した。 ◆次年度のシステム移行に向けても、計画的に進めていく。
		進路指導部	○生徒や保護者のニーズを把握し、就労やサービスにかかわる情報などについて、積極的に情報発信を行う。	・担任との懇談やPTA役員会等を通して、保護者のニーズを把握し、それらに合った進路情報をおたよりやウェブページに掲載する。 ・ニーズの把握や早期からの進路指導部とのかかわりを持ってもらうため、保護者向けの進路にかかわる相談会等を実施する。	・情報発信：２ヶ月に１回程度 ・進路にかかわる相談会等の実施：２回程度	進路指導部員	C	20	80	0	0	0	B	・情報発信：2ヶ月に1回程度　○ 　2学期以降は定期的に学部便り内進路コーナーで情報発信をすることができた。 ・進路にかかわる相談会等の実施：2回程度　○ 　保護者向けの進路にかかわる相談会（進路情報発信スペースみらいカフェ）を2回実施できた。 ◆保護者のニーズ把握のためのアンケートを次年度実施し、計画的に情報発信を行う。
		保健部	○安全や健康に関する正しい知識を身に付けさせるとともに、児童生徒一人一人の健康状態を把握し、実態に基づいた健康教育の実践に努める。	・基本的生活習慣や心身の健康、感染症等に関する情報を「ほけんだより」や「食育だより」で発信する。 ・新型コロナウイルス感染症対策や性に関する指導、心の健康等に関する健康教室を実施する。 ・学級や学部と連携を取りながら児童生徒の健康状態を把握し、適切に指導を行う。	・おたよりや掲示等による健康に関する情報発信：月1回 ・児童生徒向け健康教室の実施：年３回程度	保健部員 教職員	B	50	50	0	0	0	A	・おたよりや掲示等による健康に関する情報発信：月1回　◎ ・児童生徒向け健康教室の実施：年3回程度　◎ 　学級と連携したり、外部講師を活用したりして、日々の健康に関する授業やガン教育、性に関する指導等の授業を行うことができた。 ○養護教諭を中心に朝の健康観察をこまめに行ったり、学級や寄宿舎と情報を共有したりすることで、児童生徒の健康をしっかり把握し対応することができた。
		舎務部（保健食事）	○将来の生活に向けて、日々の健康管理の大切さを伝える。	・食育、保健衛生などに関する生徒向けの勉強会や情報発信を実施する。 ・食への興味・関心が高まるような献立を作成する。	・生徒への情報発信：月に1回 ・“お一人様メニュー”の実施：学期に2回程度 ・生徒向けアンケートによる評価：肯定的評価70%以上	寄宿舎生徒 寄宿舎指導員	B	31	69	0	0	0	A	・生徒への情報発信：月に1回　○ 　食育や保健・衛生面に関する学習会（情報発信）は月に1回実施することができた。 ・“お一人様メニュー”の実施：学期に2回程度　○ ・生徒向けアンケートによる評価：肯定的評価70%以上　○ 　実施後の生徒向けアンケートでは、90%以上の肯定的な評価を得ることができ、健康面への意識づけにつなげたり、食への関心を高めることができた。 ◆来年度も情報発信やメニューの工夫を継続し、更なる定着や興味・関心につなげていく。
		事務室	○文書受付等の迅速化により教職員の多忙感が軽減するよう支援する。	・必要な情報が早く担当者に届くように担当者を把握する。 ・迅速で的確なメール伝達等を行う。 ・事務手続き等、より分かりやすく個別に対応をする。	・衛生委員会アンケート等による肯定的評価	教職員	B	0	100	0	0	0	B	・衛生委員会アンケート等による肯定的評価　○ 　事務室内で教職員の負担軽減のためという目標が共有されており、事務手続きや会計関係等の対応に感謝の声多数あり。 ○担当者を把握し、メールの転送業務が速くなった。

＜令和４年度重点目標にかかる学校評価指標について＞

石見養護学校　学校運営方針「みちしるべ」より　令和４年度重点目標

②ＩＣＴ活用

③研修による専門性の向上　　・ＯＪＴによる学び合い、高め合う。
・自己目標に関連し研修内容を掲げる。

1：よくできている
2：できている
3：やや 不十分
4：不十分
5：わからない

A：よくできている（肯定的評価90%以上）
B：できている（80%程度）
C：やや 不十分（BとDの間）
D：不十分（50%未満）

	担当	重点目標	具体的方策（手立て）	評価方法・指標（規準）	評価者	中間自己評価	年度末評価アンケートより(%) 1	2	3	4	5	年度末自己評価	年度末評価 ・評価方法等の結果　意見：○良い点　◆改善点・改善策
②ＩＣＴ活用	総務部・教務部	○ ICT活用による学びを推進するために教職員に向け、ICT研修会や情報発信等を行う。	・教職員一人1台端末の活用に係る研修会等を実施し、ＩＣＴ支援員の派遣等を利用した校内での支援体制づくりを行う。 ・高等部生徒一人1台端末の配布開始に合わせて、利用にあたっての課題を整理し、必要なことを提案する。 ・情報教育、校内のICT活用事例等について教職員向けにたより発行	・研修会の実施：年１回 ・支援員の来校日の可視化：毎月 ・教材等の保管フォルダの整理と周知：1学期中に実施 ・児童生徒の端末使用ルールの設定：１学期中に周知 ・タブレットを用いた家庭学習について（高1生徒）の検討会：高等部、教務部で１学期中に実施 ・教職員向け情報たよりの発行：年３回	総務部員 教務部員	B	8	84	8	0	0	A	○研修会や情報発信等を通して、ICT活用による学びを推進できた。 ◆ICT活用が広がるように、効果的な活用例を周知する。また、授業公開や研修等を実施してスキルアップを目指す。 ○高１年生（１組）で、日々の健康観察や学習に加え、舎や自宅に持ち帰っての家庭学習をスタートできた。 ◆オンライン学習について、今後は休校が長期化しない方向。休校中は、子どもと学校のつながりを絶やさずに学びを継続していくことを大切にするが、オンラインでは体験的な学習ができないため子どもの実態に応じて検討していく（小中はオンライン対象外、高1年1組はGoogle meat等オンラインについて練習済み。2組は実態に応じて）
							総務・教務部　12名						

	担当	重点目標	具体的方策（手立て）	評価方法・指標（規準）	評価者	中間自己評価	年度末評価アンケートより(%) 1	2	3	4	5	年度末自己評価	年度末評価 ・評価方法等の結果　意見：○良い点　◆改善点・改善策
③専門性の向上	研究部	○校内人材の活用（OJTの推進）による研修と研究の推進で、児童生徒理解のための専門性の向上を支援する。	・校内研究の取組の中で、コーディネーターをはじめ、他分掌の専門性を活用しOJTの推進を図る。 ・校内研修での成果を学級の児童生徒理解や支援にフィードバックできるようなアンケートを導入する。 ・各グループの進捗状況やニーズに応じて、必要なサポートや情報が得られるよう調整を図る。	・アンケートの実施：研究グループ会や校内研修会の内容から児童生徒理解や支援へのつながりが図れたか。肯定的評価７０％以上 ・各グループで1実践を研究レポートで報告：全10グループで達成	各学部所属の教職員	B	25	75	0	0	0	A	・アンケート　肯定的評価70%以上　○ ・研究レポート報告　現在9グループ達成 ○特別支援教育CDの校内支援が児童生徒理解の一助になったというケースが多く見られた。 ◆研修の成果が授業実践に結びつく事例はまだ少ない。簡単に直結する内容でないこともあるが、専門性向上のための研修は次年度も計画する必要がある。 ◆授業公開に向けた日程および参観できる体制の調整を教務の協力を得ながら進めていくとより良い研究ができる。
							研究部員　4名						
	舎務部（研究）	○舎生の実態把握や支援を行うために指導員間で話し合い、専門性を高め合う。	・「舎生を語る会」や「お話週間」を指導員全員で取り組む。 ・個別の生活支援計画を指導員全員で作成する。 ・引き継ぎにおいて舎生の姿を伝え合う。	・語る会等での一人1発言以上 ・アンケートの実施：今後の支援にむけての気づきを得たか、肯定的評価７０％以上	寄宿舎指導員	B	31	69	0	0	0	A	・語る会等での一人1発言以上　○ 指導員間で話し合う時間を定期的に設定し、舎生の支援について指導員が一人平均1発言以上意見を出し合い方向性を絞ることができた。 ・アンケート：肯定的評価70%以上　○ アンケート結果から、後期の「舎生を語る会」では、前期の実態把握をもとに各舎生に対する具体的な支援について様々な角度から検討し、気づきを得ながら内容を深めることができた。
							舎務部・寄宿舎13名						

＜地域連携にかかる評価指標について＞

県教委実施の生徒対象アンケート			Ｒ３年度アンケート結果			Ｒ４年度
	質問		回答者数(A)	(A)のうち「はい」と回答した者数	(A)のうち「はい」と回答した者数	
①	「地域を活用した学習にもっと取り組みたい」「地域の人ともっとかかわりたい」と感じますか	小学部				
		中学部				
		高等部	8	5	63%	70%以上
②	「現在や将来、地域の中で自分の力を生かすことができる」と感じますか	小学部				
		中学部				
		高等部				

次回、令和5年3月実施。
実施し次第、報告し公開します。

生徒のアンケートを実施しましたので、報告します。
９月の実施時と同様でした。積極的にかかわりたくないと思う生徒もいますが、実際の場面では、役割にそってまたは相手を思ってかかわったり活動をしたりしています。そんな成長を感じる1年でした。

（別紙２）　　令和4年9月2日

令和４年度 特別支援学校 地域との連携強化事業の事業評価に係るアンケート結果（令和4年度実績）

学校名　石見養護学校

	質問		回答者数(A)	(A)のうち「はい」と回答した者数	(A)のうち「はい」と回答した割合	全体 回答者数(A)	(A)のうち「はい」と回答した者数	(A)のうち「はい」と回答した割合
①	「地域と連携した学習にもっと取り組みたい」「地域の人ともっとかかわりたい」と感じますか	幼稚部				4	3	75%
		小学部						
		中学部						
		高等部	4	3	75%			
		専攻科						

令和5年3月1日実施

	質問		回答者数(A)	(A)のうち「はい」と回答した者数	(A)のうち「はい」と回答した者数（%）	
①	「地域を活用した学習にもっと取り組みたい」「地域の人ともっとかかわりたい」と感じますか	小学部				
		中学部				
		高等部	4	3	75%	70%以上

＜センター的機能の評価指標について＞

要望に応えるための校内体制が組めたか。：巡回の希望を断った回数　0回

断った回数は、0回（1月31日現在）

希望されたところには調整して延期等はありますが、巡回を行っています。